令和6年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：7月30日（火）
会　場：十日市コミュニティセンター
参加者数：36人

参加者の発言	市の発言	備考
十日市地区ではアパートやマンションが建ち、農地がなくなったことにより、遊水地がなくなっている。昔は、田んぼが遊水地としての役割を果たしており、一旦水が溜まり排出するという仕組みがあった。今は、遊水地が少ないため、県や国の排水ポンプを活用しているが、道路に溜まった水はそのままである。	十日市地区には、昔、田んぼがたくさんあり、治水の役割を果たしていたことから、雨が多く降っても、内水被害は見受けられなかった。しかし、近年、宅地化が進み、田んぼが少なくなったことにより、内水被害が出始めている。先般の大雨時に、十日市地区の北溝川周辺の住民に避難を呼びかけた。十日市東のコンビニエンスストアの周辺でも、水が溜まった。また、十日市南でも、同じような現象があり、数年前からずっと取り組んできたが、抜本的な対策はできていない。今年度、どのような対策をすれば、内水被害の解消や軽減ができるか、調査をしている。その調査結果が出れば、皆さんに報告させていただきたい。	
北溝川の支川の流れが強い場合、直角に交わっている川の流れを止めることになる。5年ぐらい前に、少しずつ改修していくと言われたが、現在どうなっているのか。	・北溝川には改良されていない区間がある。土が堆積して、河川断面が少なくなっていることから、管理している広島県に対して堆積土砂の撤去を要請している。堆積土砂を取ることによって、川の流れがスムーズになったり、内水被害の軽減につながる。 ・国土交通省は、馬洗川や江の川についても、堆積土砂の撤去を計画的に進めている。国に対して、近年のゲリラ豪雨による被害状況や、諸対策の効果などを直接伝えるとともに、予算の確保等に向けた要望もしている。現在、国は、「国土強靭化5か年計画」に基づき、防災・減災に資する取組をしっかりと予算化して進めている。国の建設予算が激減した時期もあったが、近年の気象状況等に鑑み、防災・減災に資する様々なインフラ整備事業に予算がつき始めている。今後も、市民の皆さんの命を守るための予算について、国や広島県に対して要請を行い、事業を計画的に進めていきたい。	
・第3次三次市総合計画にある「幸せ」を実現するためには、経済の活性化を第一に考えて、物をつくって市外に売ること、市外から市内にお金が入るような取組をしてほしい。「健康」、「子どもの未来」、「豊かな心」などが記載してあるが、活力を考えると、仕事があることが重要である。三次市だけで取り組むのではなく、近隣の庄原市や安芸高田市などと連携し、首都圏に何を売り込むのか考えてほしい。 ・広島県のアンテナショップのように、東京に出張所を作っていただき、職員を常駐させて、首都圏に売り込む足がかりをつくってほしい。八次地区でショウガを栽培している方から、東京や大阪に商品を送った際の運賃が非常に負担であると聞いた。このことをクリアしたら、農業でも生活できるのではないか。シカやイノシシなどに、最後の収穫の時に取られてしまう。できることであれば、トウガラシやショウガなどの鳥獣が食べないようなものを山際に植えてもらいたい。この地域の一番の力は何かといろいろ考えて、最終的には、山や畑等を利用することがいいのではないか。それを含めて、都会に売れるものを考えていただきたい。	・若い人の就業の場をつくることや、高齢者の皆さんが仕事や地域づくりに参加していただく機会を増やすことは大事である。個別具体的な事業を行うとともに、中期的な実施計画の中で、企業誘致に資する事業を実施していきたい。ショウガやトウガラシなどは鳥獣被害が少ないと聞いている。また、薬用作物の産地化に向けた取組は4年目を迎え、現在、試験栽培をしているが、鳥獣被害は確認されていない。この栽培技術を確立することができれば、農業者の所得向上につながるし、イノシシやシカなどの鳥獣被害に遭うことも少なくなる。このような取組を継続して行い、農業所得の向上や仕事の創出という面につなげていきたい。 ・近隣地域との連携について、備北観光ネットワーク協議会を設けて、庄原市と三次市が連携して観光産業を一緒に盛り上げていく取組として、それぞれの有する魅力をつなぎ合わせ、滞在時間を増やして、このエリアに宿泊してもらう取組を実施している。また、三次市と庄原市で負担金を出し合い、備北地区消防組合として消防署を運営している。どの分野においても、連携できるところはしっかり連携して、コストを最小限にして、サービスを最大限にしていく。 ・東京都銀座にある広島県アンテナショップ「TAU」において、三次市の農産物や加工品などを販売して、認知度を高める取組をしてきた。首都圏に活動拠点がなかったため、昨年、東京都渋谷にある地域共創拠点「渋谷キューズ」を借りて、首都圏の学生や三次市にゆかりのある皆さんが、そこを拠点にして、「共創」に向けた様々な活動ができるようになった。先般も、ブルーベリー栽培や米づくりの事業をされている方が、首都圏の皆さんに、三次市のすばらしさや事業をプレゼンするなど、拠点として活用されつつある。この拠点を活かして、三次市内と首都圏をつなぎ、新たな価値が生み出されるようなことを想定している。「渋谷キューズ」には、大企業や行政、東京大学をはじめとする首都圏の大学も参画している。引き続き、共創拠点「渋谷キューズ」を通じた情報を発信しながら、三次市の魅力づくりに努めていきたい。	
メルカリなどと取組を進めているが、物を分別して分解すれば、価値が出ることや無駄なく利用できることを子どもたちに教えてほしい。例えば、活用されていない施設を活用し、木材製品だけを集めて、子どもたちに分解作業に参加してもらい、同じものが再利用されて製品ができていくことを学ぶ場を提供していただきたい。高齢者も関わることで高齢者の仕事にもできるのではないか。	昨年から、みよし未来環境会議をスタートさせて、8名のサステナアンバサダーに参加していただいた。その中のメンバーが、今すばらしいことにチャレンジしてくれようとしている。民間事業者に、二酸化炭素をエネルギーに変えるという提案をするものである。サステナアンバサダーに就任した子どもたちが、学びを深めて、自ら主体的に動き、企業にプレゼンに行くというところまで成長されている。学びは、子どもたちの可能性を広げていく。このことを多くの人に知ってもらえるように、市として、広報活動をしていきたい。また、昨年のアンバサダーの活動は、アンバサダーの皆さんにとっていいものだったと伺っている。今年度は、19名の皆さんにご応募いただき、昨日、就任式を行ったところである。今後も、高校生や高齢者など、市民みんなで取り組むことが大事であり、一人ひとりの意識を変えるには時間がかかるが、地道に取り組んでいきたい。	
5年前に、災害対応について提案しているが、改善していない。国道183号から十日市コミュニティセンターの駐車場に入る歩道の近くに、中国電力の黒いボックス（地下から上がる電線の結束点）がある。中国電力のボックスが浸かると、一帯が停電になる。中国電力からは、「半分ぐらい浸かると駄目になる」、「半分以下でも駄目かもしれない」、「自動的に漏電を検知して切れる」などと聞いたことがある。停電すると、十日市コミュニティセンターが基幹避難所として使えなくなることから、改良してほしい。	ここ5年のうちで、平成30年豪雨災害、令和2年や令和3年などの大雨による内水被害もあったが、今のところ、183号沿いのボックスが原因で停電したことはない。ただし、今後、雨がどれぐらい降るかわからないことを踏まえれば、危機管理の面から、調査して、今後の対策をしっかりと考えなければならない。そのため、現状を調査し、必要があれば、適宜、対策を実施していきたい。	※現状を調査し関係部署と協議中

令和6年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：7月30日（火）
会　場：十日市コミュニティセンター
参加者数：36人

参加者の発言	市の発言	備考
重要な課題である人口減少をどのように止めるのか。あるいは、増やすための具体的な方策を教えてほしい。	「日本一の子育てのまち」をめざして、早くから少子化対策を実施してきた。例えば、24時間小児救急医療や、2人目は半額、3人目は無料という保育料の制度、さらには、医療費500円などの取組をしてきた。合併以降、子育て支援や教育のために投資し続けてきたが、結果的に、少子化を食い止めることができていない。昔は、三次市がトップランナーであったが、全国的に子育て支援策が充実してきており、現状は平均的なものになっている。人口減少・少子高齢化は、日本の構造的な問題である。すぐに少子化が改善することはなく、こども家庭庁を中心に、国と地方とが協力し合い、20年後、30年後に向けた挑戦として、具体的な対策を講じていく必要がある。三次市の特色ある取組は大事であるが、国としっかりと連携しながら、東京一極集中の是正に向けた抜本的な対策をしなければ、地方から人が離れていく可能性が高い。広島県市長会など自治体間連携の中で、国に対して提言をしていきたい。	
実施事業には期限を設定して、評価や管理をしなければならない。例えば、女子野球のまちにするため、いつまでにチームをつくるのかという期限を決めなければ、人も集まらないのではないか。できたかどうかで評価を行い、できない場合に次のステップを考えていく必要があるのではないか。	第2次三次市総合計画と第3次三次市総合計画で大きく違う点は、通期目標をそれぞれの項目で立てて、10年間の中で、各年度の実施計画などの事業を通じて、目標を達成していくことである。具体的な期限や数値目標は大事にするべきところであり、その数値目標があるからこそ、検証ができる。今回の第3次三次市総合計画では、行政として、意識して取り組んでいく姿勢を明確化している。なお、女子野球チームについては、今年度中にチームができるように取り組んでいく。	
テレビの天気予報では、県北のところに、三次市ではなく庄原市が表記される。三次市が表記されるように要望してほしい。	・天気予報で見る都市の表記については、各テレビ局によって違う。庄原市が表記されている理由はわからない。 ・天気予報の区分は、広島県の場合、南部と北部の2つに大きく分けられている。庄原市が北部の典型的な天気として出されていると思う。ただ、三次市は大きく分けると、北部の天気予報として出されており、参考にしていただきたい。	
平成26年に尾道松江線が開通した。物流センターの拠点をつくることも計画されていたと思う。人口増加のため、工場を誘致してほしいが、結果が見えていない。	尾道松江線開通後、物流系の会社が新たな拠点として進出してはいない。三良坂町時代に造成された三良坂産業団地は、企業誘致の場所として確保され、2年前に、ホームセンターに農業資材などを卸している企業を誘致することができた。将来的には、10名程度の雇用を想定しておられ、三次市の立地性を見込んで進出された。今後は、物流企業に限らず、企業誘致などを行いながら、働く場所の確保について検討していきたい。	
近年、企業では、定年延長により、70歳まで働く人が多くなっている。これまでは、定年後に三次市に帰ってきた人が市内で雇われていたが、75歳ぐらいまで都会にいることになるのではないか。三次市を出られた人は、故郷とのつながりが全然なくなり、帰ってくることもなくなると思う。三次市の人口が増えることも考えてほしい。	狭い日本列島の中で人口の奪い合いをしていることが、今の構造上の大きな問題である。今、その問題を中・長期的に解決していく取組をしなければ、手遅れになると感じている。今後、定住人口を増やす取組だけではなく、関係人口を増やす仕掛けをし、定住するきっかけづくりを進めていく。	
・十日市中原では、田んぼがアパートになり、遊水地がなくなっている。一方、道路はそのままである。民生委員をしていることもあり、年配の方が多く、避難所である十日市コミュニティセンターまで歩いて行くことは難しいと感じている。水が道路上にオーバーフローしており、十日市西から歩いて避難することは難しい。車では渋滞して混雑するのではないか。駐車場もない。避難所としてシミュレーションをしてほしい。 ・成光池からは、北溝川と片丘川に分かれて出るようになっている。その成光池の水は、住宅街になっている酒屋地区から流入している。	・避難所は、基幹避難所、補助避難所、地域避難所に分けられており、十日市地区においては、基幹避難所が十日市コミュニティセンター、補助避難所がみよしまちづくりセンターや十日市小学校、十日市中学校、市役所と指定されている。 ・平成30年の豪雨災害時には、車で避難される方も多かったため、酒屋地区にあるパチンコ店の駐車場を避難スペースとして使用できるように連携協定を締結した。みよし運動公園も避難できる場所になっている。また、新しく建設する消防署にも、車で避難できるスペースをつくる予定である。自分の家から、どこに避難すれば一番安全なのか、家庭や個人でシミュレーションしていただきたい。地域の皆さんが避難しやすい場所をもう一度話し合って設定してほしい。見直すことも重要と考えており、十日市南の避難所のあり方や、補助避難所、地域避難所について調査を行う。	

令和6年度　まちづくりトーク　主な意見

開催日：7月30日（火）
会　場：十日市コミュニティセンター
参加者数：36人

参加者の発言	市の発言	備考
三次市から若者が出ていき、帰ってこない。三次市の魅力づくりが重要である。昨年の中学生の意見発表会では、娯楽施設がないと言っていた。みよし運動公園ができたが、スポーツや散歩などをする人しか行かない施設である。運動広場を人工芝にすると、できるスポーツも少なくなり、子どもたちが自由に入れる広場ではなくなる。例えば、三良坂小学校にはグラウンドや校舎があることから、リニューアルして宿泊施設をつくり、人工芝にすることはできないのか。三次市は中国地方5県の中心であり、安く泊まれる宿泊施設が増えれば、多様なスポーツが集まることができる。また、施設を充実させるなど、大きな観点からシミュレーションをしてほしい。	・みよし運動公園は、中国地方の真ん中にあり、高速道路がクロスしているから集まりやすいという声を直接聞く。女子野球については、2年前から、西日本にある約30チームが参加する大会を毎年行っている。また、8月10日には、ソフトテニスの全国大会がはじめて開催される。みよし運動公園には、中四国地方では最大規模となる屋内外のテニスコートがある。今ある施設を活用し、利用率を高めるための合宿や大会を誘致するとともに、観光消費額の増加につなげていきたい。 ・三次市の課題として、宿泊場所がないことがずっと挙げられてきた。市長就任後、宿泊事業者の誘致に取り組み、ホテルが開業した。非常に高い稼働率であり、ホテルの開業によって、地域も活性化している。宿泊場所ができたことによって、三次市の可能性が広がっており、宿泊事業者と連携しながら、スポーツ大会や合宿、観光に取り組んでいく。これまでも、平日に宿泊する人が多く、三次市を拠点にして周辺地域に営業されるという傾向があった。もっと工夫をしながら、宿泊場所の確保について取り組んでいきたい。 ・地域の皆さんには、十日市小学校・中学校の改築について、いろいろな形で関わっていただいている。特に、基本計画の策定へのご協力について、この場を借りて感謝を申し上げる。十日市地区は、中心部に学校があり、いろいろな人たちと関わり、多様な取組ができることが強みと思っている。今までも、三次市を大切に思い、市外に出ても帰ってきてほしいという思いで教育をしてきた。これからも、小・中学生としっかり関わっていただきたい。子どもたちは、十日市地区をもっと大事にしながら、やがて自分たちが引き継いでいくということを自覚していく。学校の中だけでなく、地域と一緒に、教育を充実させていきたいと強く思っている。十日市コミュニティセンターでは、中学生に防災教室を開いていただき、この夏には小学生も含めて、いろいろな教室も開いていただく予定と聞いている。引き続き、教育行政だけではできないこともあり、知恵を出していただきたい。	